

《特選》

LGBTの理解について

彦根総合高等学校 一年

川上 鈴菜 さん

皆さんは、LGBTについてどのように思っていますか。私は、もっと知って欲しい、理解が深まって欲しいと思います。私がLGBTと自覚したのは小学生の時です。その時に好きになった人が生物戸籍上女の子だったからです。そして、自覚すると同時に「バレたらやばいな。」「周りと違うから僕は変だな。」と思いました。この時はまだLGBTという言葉を知りなかつたからだと思います。そして、体が成長していくと同時に自分の体がすごく嫌で気持ち悪く感じるようになりました。でも、男

になりたいわけでもないからよくわかんない、という感情が自分の中でありました。自分に正直に生きている人がなぜ傷つくことを言わないといけないんだろう。いつまでも昔のまま、他国のように多様性社会ができないのだろう。変わっていかないのだろう。そこで思ったことは、まず、学校関係だと思えます。何かあれば、男子、女子で並べせたり、男子の中から一人、女子の中から一人選ばせたり、男女で区別しているからなのかなと思いました。私は、自覚してから、その話し合いがとても苦しかったです。ずっと悩んでいた中で、私にはある出会いがありました。それは、ネット内での出会った人です。ネット内では素顔を見せないの、自分らしさが出せてすごく過ごしやすかったです。そして、同じ

思いをしている子にも出会いました。その子も周りに言えず、辛い思いをしている子でした。私は、学校という狭い世界しか知らなかつたけれど、そのネット友に知り合つて、色々な人がいるんだな、こんな私でも認めてくれる人がいるんだな、と思えました。一人でも認めてくれる人がいると勇気が出て、仲の良い子には打ち明けることができました。みんなすごく優しく接してくれてずっと自分を隠さなくてよかつたと思えました。私は周りに優しい友達がいって救われたと思います。周りにしてもらつたように一人でも多くの人を救いたい。救えたらいいなと思えました。

私がこの作文を書いたのには理由があります。それは、私と同じ思いをしている人が少しでも周りの人に打ち明けやすくなつたり、理解が深まつたりしたらいいなと思つたからです。ぜひ皆さんも一度思い返してください。自分の行動は「差別」になつてしまつていないか、人を傷つけていないのか、を。そしてこれからもしないように気を付けて欲しいです。

《選評》

LGBTの問題は、日本ではまだまだ理解度が低いと思います。自身をLGBTと自覚し、悩んでいる中で、ネット友に認められたことが転機となります。その仲の良い友達にカミングアウトでき、救われた思いになります。実体験に基づくLGBT当事者としての思いをLGBTで悩んでいる人、周囲の人へのメッセージとして書かれている良い作品だと思います。(北川 博)